

## 「大人の縁 en J O Y博」

名 称	大人の縁 JOY 博 オトハク
会 期	2013年5月16日(木)～18日(土) 3日間
会 場	幕張メッセ 展示ホール 8
主 催	<a href="#">一般社団法人日本熟年会議所</a> 、 <a href="#">一般社団法人超高齢社会開発協会 (S.A.S.D.A)</a>
来場者	シニア・ユーザー (概ね 60代を中心としたシニア)

### 開催概要

---

大人のエンジョイ博 オトハクとは団塊世代を中心に、年齢相応という生き方ではなく自分の好みやセンスを中心に、自ら人生をプロデュースするシニアが急増しています。そんな、ただ見た目が若いだけでなく、若々しく感動する力を持っているシニア。いわば「年齢を楽しむ大人たち。現在の自分の若さを楽しむ大人たち。」が集まる場所。そういう大人たちに新鮮な情報を提供し、それぞれのライフスタイルに新たなヒラメキをもたらすイベント。

**それが大人のエンジョイ博 オトハクです。**

### 同時開催予定

- ウォーキング大会(主管:千葉県ウォーキング協会)
- 社交ダンスパーティー(主管:月刊ダンスビュー)
- 体力測定会(日本オリンピック協会など協力予定)
- カラオケ大会(主催:千葉県老人クラブ連合会)



## 「シニアの祭典」——

今回は「エキスポ スーパー65+」としては三回目、「大人の縁 en J O Y博」としては初めての催しになる。

毎回、来場者の意向を活かしながら出展・出演に変化をつけているが、何としても知名度の足りないことがきびしい。2万人目標で仕掛けているようだから、それを超えないことには、愉しそうな参加者の姿とはうらはらに、出展・出演した側に満足がえられず、主催者としても成功といえないというところだろう。

第一回「エキスポ スーパー65+」は、2011年11月にスタートした。おりしも「2011・3・11東日本大震災」のあとのきびしい環境のなかで、元気な高齢者が全員参加できる「シニアの祭典」としてのコンセプトを掲げて参加を呼びかけた。展示もセミナーもウォーキングもこれまでにないレベルの内容で評価は高かったが、デフレの上に大災害とあって、(参加費も重なってか)、参加者の出足は鈍く、出展社・出演者・主催者とも満たされぬ結果に終わった。スタートでのつまづきはきびしかったが、潮目の変化はそこまできており、主催者の掲げた烽火に時代が呼応するだろう。

今回は環境アートの一人者である長谷川章氏の「デジタル掛け軸」が会場を圧していた。メッセ会場の壁面いっぱいに展開する映像は見るだけで元気になれる。スクリーンが城(熊本城)であったり、高楼(上海の豫園)であったりすると、単なるライトアップとは違う美のうえに美が重なる世界が展開する。会場も光を落して大人の雰囲気演出している。ウォーキング参加の人たちは3倍増でふえているという。千葉ウォーキング協会、オリンピックズ協会の強力な支援が力になっているのだが、参加者が大挙してもどってきた土曜日の昼すぎの会場を見ていると、明るく元気な人たちであふれて、これぞ「大人のエンジョイ博 スーパー65+ シニアの祭典!」という感激にとらわれる。

創り、使う祭典——「展示」ほか、新技術・新製品、サービスの参加はいま一



歩。語り、踊り、歌う祭典——心の充足もいま一步であるが、次回の11月にはもう一步華やいた「大人」がエンジョイする姿でにぎわう祭典になることは想像された。主催者の労苦は並みたいではないだろうが、かならず報われるだろう。その実感はあるはずだ。それはこの国の高齢者が「体・志・行」あるいは「健康・知識・技術」の分野で元気に活躍して暮らす証だからである。

いつかスポーツ部門はウォーキングや体操や陸上競技でマリーナスタジアムを満員にし、内外からの新製品でメッセ展示場を埋め尽くし、セミナーや音楽会を満席にする。メッセをそうしてこそ「日本高齢社会」は、存在感を明らかにし、世界のモデルとして展開することになる。日本高齢者はそれを体現できる力を持っているはずだ。だから本展は初代としての誇りを満喫していいのである。(2013・5・18 記 堀内正範)



ウォーキングに参加した人たちは愉しそうだ。歩いて、しゃべって、食べて。長寿の三つの要素「体・志・行」をすべて満喫しているからである。





(上) 熱っぽく自作の「デジタル掛け軸」  
の特徴を語る長谷川氏。

(左) 同じ世代の人群れの中に憩う。こ  
れほど安堵できる居場所は他にない。

(下) 「環境アート」の鑑賞のためもあつ  
て光をおとした会場。大人が出会うにあ  
つてふんいきがある。



[前回まで]



## 第二回「エキスポS65+」

シニアのイベント「エキスポ・スーパー65プラス」

65歳からの素敵なライフスタイル・フェア

2012年11月15日（木）～17日（土）

会場：幕張メッセ

主催：日本エグジビション

<http://expo.super65plus.jp/event/index.html>

コンセプト

---

**シニアと企業をつなぎ、シニアとシニアを結ぶ。**

**それこそが「S65+（スーパー65プラス）」の使命です。**

---

現在、約3000万人を数える65歳以上のシニア層。2012年からは、ここにいわゆる団塊の世代も加わり、さらに、2050年頃には人口の約40%を占めると言われ、社会全体に与える影響力はますます大きくなっていきます。

日本全体が活力を取り戻すためには、シニア層の持つ巨大なパワーが必要不可欠。これは誰しもが認めるところでしょう。しかし、そのための方策がなかなか見つかっていません。一方でシニアの側も、自身の人生をよりよく生きるために、社会とのつながりを求め続けています。ただ、ほとんどの人が「どこに行けば、それがあるのか」「そのために何をすればいいのか」が、よくわからないままです。

こうした現状を打破すべく、誕生したのが「S65+」です。我々が目指すのは、「シニアと企業をつなぐ展示会」「シニアとシニアを結ぶ交流会」という2つの機能を併せ持った大型イベントの実施です。大勢のシニア、関連する企業、全国の自治体、各種コミュニティなど、すべての関係者が一堂に会する「出会いの場」を設けることにより、65歳以上の世代が「消費者」であると同時に「情報の発信者」「産業の担い手」にもなっていただければと考えています。

未曾有の超高齢社会にあって、シニアを積極的にサポートしていくことは、企業の社会的責務です。「S65+」では、この分野で活躍する企業間の異業種交流も推進し、様々な連携強化を図っていきます。

主催 日本エグジビション株式会社

\*\*\*\*\*

## 第二回開催への期待

### 昨秋に世界初の催しとしてスタート

第一回「エキスポ スーパー65プラス」は、昨年の秋、11月15日・16日・17日の3日間、幕張メッセでおこなわれました。上記のようなコンセプトをもつ催しとしては、メッセで初めてであり、日本で初めてであり、先行高齢化国のトップランナーである日本で初めてということは、世界で初の催しでもあります。

何が初めてであったのか。

- ・65歳以上の高齢者が対象であること。
- ・シニアの暮らしを支えるモノとサービスの展示会（3日間）であること。
- ・シニアライフの多彩な課題を語り合うフォーラム（3日間）であること。
- ・高齢者が「元気に歩く」ウオーキング（16・17日）が同時開催であること。

という3つのイベント構成の総合的な催しとして、高齢者が関心をもつさまざまな出会いの場を提供したことにあります。参加者は、歩いて、語り合っ、展示を見て触って、それぞれにシニアライフの糧を得ることができました。

その開催と成功と発展は、わが国の高齢社会におけるモノとサービスの達成点を示す展示会として高く評価されるべきものです。

### 三つの部門の総合イベント

#### 「ウオーキング」

長い高齢期を元気で健康に過ごすためには、まず日常生活の“歩行”動作が軽快であることが基本です。クルマ社会になってドア・ツー・ドアで“車行”する人は、気づかないうちに歩行をおろそかにして暮らしています。手軽にいつでもできるウオーキングをおこなうことによって、日常の動作が改善されるだけでなく、高齢者に特有の生活習慣病や老年病の予防にも有効であることが実感されるようになります。

「S65+」では、幕張メッセをスタートとゴールとする「未来都市 MAKUHARI ウォーク」を16日・17日の両日、6コースでおこないました。16日には体操の早田（卓次）さんほか、17日にはマラソンの瀬古（利彦）さんほかの有名オリンピックも参加。参加者みんなで特別企画「オリンピック選手と一緒に歩こう」を楽しみました。

#### 「語り合う広場」

多くの元気な高齢者は激動の65年+を過ごしてきて、その間に得た知識や技術や資産を保持して暮らしています。活かせる場があれば活かしたいと考えています。そういう社会参加を願っているみなさんが集まって長寿社会が直面している課題について自在に語り合う。そのためにさまざまなテーマのステージが用意されました。

「シニアライフを語り合うフォーラム」がそれで、3日間に30ステージを設けました。鳥越（俊太郎）、坂東（真理子）、服部（幸應）、半藤（一利）さんといった知名人の講演や身近な課題である「年金」「ライフプラン」「生涯学習」「NPO・地域活動」「定年後の生き方」などの談論の場。「いけばなの実演」「健康食品の選び方」「健康体操の実技指導」「俳句の味わい」「孫の撮り方」「福祉用具の使い方」「デジタル機器の使いこなし」などの実用ステージ。「フラ・フェスティバル」「シニア・ファッションショー」といった実演。「三世代交流」に配慮した「次世代を育てる」「おもちゃの世界」、地域からは「伝統はぐくむ小江戸さわら」「住みよい街—江戸川区」の報告など。高連協が特別協力していただきましたので、樋口（恵子）、堀田（力）両代表をはじめ活動の実践者が参加する「シニアの公開討論会」もあり、「高齢社会」に対する熱い議論が展開されました。

語り合いの場は、ステージばかりではありません。あちらこちらに設けられた休憩所ではもちろん、展示ブースではさまざまな談論の輪が繰り広げられました。だれもが時代の哀楽をともにしてきた仲間ですから親しい会話が展開されたにちがいありません。

## 展示会は小売企業が中心

シニアと企業、シニアとシニアをダイレクトに結びつけ、元気な65歳以上の人びとの素敵なシニアライフを実現し、社会全体に活力を還元することを目的とする「エキスポS65+」の中心は展示会にあります。

主催者側が営業を通じて接した数百社の企業から得た感触では、メーカーは関心が高いものの出展製品までは間に合わず、来場高齢者（ユーザー）の暮らしの動向により近い総合小売業各社がブースをかまえるといった現状認識の差が見られたといいます。大震災後でもあり、初回開催でもある展示会への出展企業側の対応に差がみられ、主催者側に厳しい出展数の減少となったことはたしかです。新たな展開としては、小売企業が消費者から肌で感じたニーズをメーカーに伝えて商品化をすすめるといった傾向がみられ、一足先に出展して多くの来場者と接することがエンドユーザーの要望をキャッチするチャンスになるという出展メリットの指摘もなされていました。

高齢者の購買力に関しては、シニアは自分が使うものばかりでなく、子どもや孫世代に関するもの、たとえば家のローン、教育費、ランドセル、自転車、学習机、ケイタイ、パソコン、振袖、はてはクルマの購入や家族旅行まで支援することになるという将来予測の紹介もありました。広報については多種多様な媒体を組み合わせたきめ細かな手法の説明もなされていました。

### 3日間の開催会場で

晩秋の3日間を、歩いて、語りあって、見て触って確かめて1000円（割引利用）で楽しむことができたのが第一回「幕張メッセ S65+ シニアの祭典」でした。web「第一回開催のご報告」でみるように、イベントの中心になる新製品やサービスの展示会場はシニアマーケットの将来を見通してさまざまな小売・製造企業が幅広く出展しており、暮らしの現場に配慮した衣・食・住・趣味・健康・備えといったエリアごとの各ブースでは、来場者との間で熱心な話し合いの姿がみられました。それでも期待した来場者には及ばず、「語り合う広場」は充実した内容にもかかわらず空き席が目立ち、幕張メッセでのメッセージ性の強いセミナーとの折り合いに疑問が出ることになりました。メッセは展示場という印象は、ウオークとセミナーの展開に厳しく働いたようです。曲折はあるでしょうが、幕張メッセでの「シニアの祭典」としての「S65+」のグランドデザインは、第一回の構成の成功にむけて進むものと思われま

### 高齢者の消費の活性化

野田総理は昨年10月14日の「高齢社会対策会議」の席で10年ぶりの「高齢社会対策大綱」の見直しを指示、高齢者の居場所と出番の用意、孤立防止、現役時代から備えの三つを基本的な視点とした上で、もう一つ、「高齢者の消費をどう活性化していくのか」という基本的な視点での検討を提示しました。

「S65+ シニアの祭典」からすれば、「居場所と出番」を用意しているし、「孤立」を防ぐ集いであるし、「高年期の備え」を示そうという立場であり、それに加えて「高齢者の消費をどう活性化していくのか」こそ、本イベントの中心課題なのですから、総理まだそんな総論をいっているのですかといいたいところでしょう。65歳以上の高齢者に呼びかけて、健康であり、物心ともに暮らしが豊かになり、安心して過ごせることをめざして開催する総合イベントなのですから、高齢者の活性化の「最先端のモデル」をつくることとなります。

### 各界からの祝辞

初日の開会式で披露された各界の方々からの祝辞を紹介しますと、野田総理は開会式の祝辞で、千葉県初の総理として当イベント開催と発展に強い期待と支持を寄せています。100歳になられた日野原（重明）さんは「75歳以上の高齢者（新老人）が今までやったことのないことに挑戦する」意義を述べられ、米寿の経済人品川（正治）さんは「悲惨な戦争を体験した国民として平和の尊さを次世代に伝承する」願いを訴えられ、学者の小宮山（宏）さんは「高齢社会のモデルをつくることが世界史的な貢献」との目標を示され、高連協両代表である樋口（恵子）さんは「シニア・ビー・アンビシャス」であり「人生100年の初代として力を尽くそう」と呼びかけられ、堀田（力）さんは



「この祭典が自分の生き方の道案内となること」に期待をかけておられます。これらのすばらしい祝辞は、本イベントの指針として活かされることになるでしょう。

## 第二回そして将来への期待

2012年の「エキスポS65+」は、11月15・16・17日の3日間、土曜日を加えて幕張メッセでおこなわれます。野球でいうなら2番バッターの役割をはたす回になるのでしょうか。昨年よりコンパクトにして、対象も若い層にし、入場無料にし、一般の人びとが訪れやすい構成になっています。新宿の歌声喫茶「ともしび」の出前出演や社交ダンスのステージなどもあるようです。主催者の構想によれば、来年5月の第三回を本格的な開催として位置づけて、「シニア市場」開発の先駆的な立場で、高齢者の暮らしを豊かにするこれまでにないモノとサービスの展示会にすべく準備をはじめたようです。いずれは国際的モデルとしての「日本高齢社会」の成果を展示会として国際発信できる「エキスポS65+」への発展に期待をこめて、高齢者のみなさんとともに関心と支持と参加をつづけたいと思います。

(2012・11・1 堀内正範 記)